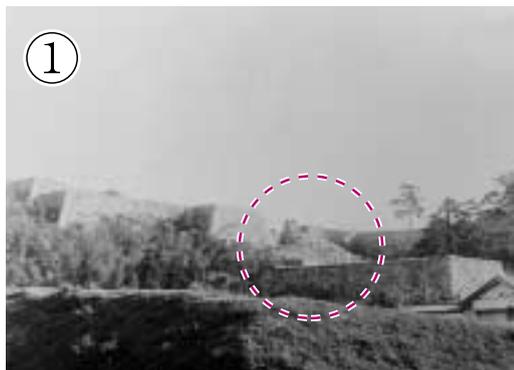


今回は腰巻櫓の石垣について検討します。腰巻櫓の載る石垣（以下「腰巻櫓石垣」と呼びます）は、前回お話しした裏鉄門の南側に隣接して築かれています。



① 櫓台崩落の状況（印、明治23年）

この部分は百聞録の第1話でも紹介しましたが、明治23年に上の写真のように石垣が崩落し、積み直されているか所で、その状況は ①のとおりです。向って右側の石垣は七間廊下の櫓台で、その石垣に小さな石垣を付け足したように見える部分が積み直された腰巻櫓石垣です。両者は一直線につながっています。

ところで、①と②を注意深く比較すると、



② 腰巻櫓石垣積み直し状態（左）。右の下石垣との間に目地が確認できます

津山城百聞録

45 津山城の築城過程6 腰巻櫓石垣はなぜ崩落したか

腰巻櫓石垣と七間廊下石垣の高さが逆転していることに気づきます。①では明らかに腰巻櫓石垣の方が七間廊下石垣よりも高いのに、②では逆に低くなっています。

ここで発掘調査の結果を見てみます。腰巻櫓石垣の基底部分は発掘調査の結果、のように現状の腰巻櫓石垣基底部よりも1メートル程度張り出していたことが分かりました。



③ 腰巻櫓石垣基底部の状況

つまり、腰巻櫓石垣は七間廊下石垣よりも高く、さらに七間廊下石垣面を包み込むような構造になっていたのです。ですから右半分に見える七間廊下石垣は、本来は腰巻櫓石垣に覆われて見ることのできなかった石垣なのです。

明治初年に津山城の建物はすべて撤去され、腰巻櫓もその例外ではありませんでした。そのため腰巻櫓石垣の上面からは雨水が入るようになりました。①のように七間廊下石垣と崩落前の腰巻櫓石垣との間にはほとんどすき間がなく、雨水を排水するためのグリ石が入りません。そのためこの石垣のすき間に雨水が入るようになり、その圧力に耐えかねて、前述の明治23年の石垣崩落が起きたのだと思われます。

毎年、車いす駅伝の競技後は選手と市民のみなさんが和やかに交流する場面が見られます。今年はデジタルカメラやカメラ付き携帯電話で写真を撮り合うようすもよく見られました。おなじみの光景も少しずつ時代を反映して変化していますね。(e) 紅葉の時期も終わりましたねある日、上の子どもが「玄関にダチヨウの」は「があるでー」と言いました。「えっ！ダチヨウの歯？羽？」と思い玄関に行ってみると、そこにあったものは、「お姉ちゃん、これはイチヨウの葉でしょ。(ひ)

11月は多くの行事が行われますね。今年もイベントや講演会など盛りだくさんで、取材はしたのですが広報紙へ載せきれませんでした。また、車いす駅伝競走大会が例年より1週間遅かったので、(ひ)さんは締め切り間に合わそうと編集がたいへんそうでした。(郁)

編集後記

今月の納税

固定資産税 4期
国民健康保険料 5期
介護保険料 7期
納期限：12月25日（木）

ひとの動き

(11月1日現在)
人口 90,118人 (前月比 +6)
男 42,946人 (同 +17)
女 47,172人 (同 +11)
世帯数 34,866世帯 (同 +18)

10月中の異動数

出生 70人、死亡 62人
転入 223人、転出 237人

12月
2003

編集・発行 津山市企画部行政広報室
〒708-8501岡山県津山市山北520
☎0868-23-2111(代) 32-2029 ☎0868-25-0263
Eメール kouhou@city.tsuyama.okayama.jp
津山市ホームページ <http://www.city.tsuyama.okayama.jp/>
(PDFファイルで全紙面を掲載しています)

発行日 毎月10日
印刷 株式会社 廣陽本社

